

---

# 転生者予備軍の倉庫 後転生

クリス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生者予備軍の倉庫 後転生

### 【Nコード】

N1236Y

### 【作者名】

クリス

### 【あらすじ】

転生者となる人たちの様子と転生風景です。多少残酷かもしれませんが、ぜひ注意下さい。

広いドームのような空間を俯瞰的な視点で眺めています。床は白く、天井はありません。

壁はひどく遠い位置にあり、異様に高く、上端は見えませんが、

空間には無数の荒縄が空から地面へと向けて整然と伸びてきています。

荒縄の先には蓑虫のように人がぶら下がっています。

もちろん荒縄を掴んでぶら下がっているわけではありません。首に結んであるのです。

それはもう自殺したかのような様相でぶら下がっています。

静かに垂れ下がる体のどこにも力の入っている様子はなく、どう見ても死んでいます。

無数の死体が端から端まできれいに並べられて吊り下げられています。

どの死体も苦しんだような形相はしておらず、穏やかな顔をしています。

気がつくとも無数の死体の間を数人の人が歩いています。

何かを吟味するような、あるいは物色するような様子で死体の顔を覗き込んでいます。

ろくに見もしない死体もあれば立ち止まって頭の前から足の先まで何度も視線を往復させる死体もあります。

耳を澄ますと抑えたように小さく、掠れた声が聞こえてきます。

「微妙」

「ん〜。どうかなー？」

「使えそうなのあった？」

「うんにゃ。中途半端」と独り言のようなものもあれば会話をして

いるようなものもあります。

「正直さー、転生者とか何でこん中から選ばなアカンの？面倒いやん」

「さあ？よくは知らないけど昔からの決めごとだから」

「せやけどさー、死人の魂とかどつからでも持って来れるやん」

「そんなことしたら収拾付かなくなるから」

「だいたいこいつら相手に下手にでなアカンのがむかつく。何やねんミスとか。」

神様がミスるわけないやろ。ほんでミスや言ったら蹴ってきたり殴ってきたり。

さっきまで吊っ下げられてたくせに。もっかい殺したろかつーの」

「まあ最近はあるからねー。神様に転生させてもらう転生ものの小説とか。小説でもやってたし、俺もよくね？みたいな感じじゃないの」

「ほんまうざいわー。何様やねん」

「無神論者多いからね。日本は」

「神様敬わんのやな」

「うん」

幾人かは気に入った死体があつたのか、脇に抱えたり横に浮かべて何処かへと消えていきます。

俺は今、書斎でスーツ着て執務机に座つとる。

向かいには詰め襟着た高校生ほどのオタク臭漂う肥満男性。

「ご理解いただけましたか？」

「ああ。つまりお前ら神つてのが俺を殺したんだな」

俺神様やで、神様。何でため口やねん。殺してへんし。

「そうなりますね」

「くそつ。ふざけんな！どうしてくれんだよ！」

知らねーよ。もう死んどけよ。つーか一通り説明したろが。

「ですから」

「ああ！！？」

うるせーよ。説明聞けよ。どつくぞボケ。

「転生ということになります」

「・・・。ただでつてわけじゃねーだろーな？何せお前らのミスで死んだんだからな。

特典とか付けてくれんだろーな？おお！？」

うぜー！？何かニヤツとした後めっちゃ見下して脅してくるんですけど。つか殺してねーし。

付けなくていいーかな、特典。マジもう良くね？いや、付けるけどね。仕事だし。

「それはもう、もちろんです。可能な限り叶えさせてもらいますよ」  
「ふん。まあ当たり前だよな。何せてめえらのミスで殺されたんだからな」

だからつざいって。神様舐めんなよ。ミスるわけねーだろ。嘘だつ  
つーの。

つかミス押してくるんですけど。

「ええはい。本当に申し訳ありません。」

「んで、どこに転生すんだよ？つーかそっちは希望きかねーの  
かよ？」

ホンマ訊かんといたるか。

「いえ、希望があるのならばそれも可能な限り叶えさせていただき  
ますよ」

「んじゃリリなのな。特典は魔力チートとfateの王の財宝と無  
限の剣製とお・り・が・みのマリーチの能力で」

うえーい。テンプレ乙。まあ、マリーチ様は珍しいけど。

とりあえず能力は付けるけど制御できない感じで。

魔法は至近距離で大爆発、王の財宝は開け方が分からないか暴発、  
無限の剣製は身体中から剣が生えてくる、

マリーチ様は情報過多で脳死で決定やな。

あー、あと転生場所何処にしよう？違法研究所んところの実験台でえ  
えかな。

実験で死ぬか能力の暴走で死ぬか。見物やな。

「あと容姿な。銀髪オツドアイのイケメンで。右目は赤で、左が青  
で。」

あつ、やっぱ両目碧眼か赤色の方が格好いいかな？

どっちがいいかなー。んー」

きもっ！寒いわアホ。どんなんやねん。人間ちゃうわ、もつ。宇宙  
人やで、宇宙人。イケメンで顔のことやろ？

眼どっちにするにしろイケメンのデブで肌黒色の髪の毛縮毛にした  
ろ。あと全身ゴリラみたいに毛深く。

眉毛もゲジ眉でケツあごや。  
まあ気になる年齢まで生きるか分からんけどな。

「お前が決めといて」

おし、どっちかに決めといてとは言われてへんな。白目のとこ含めて全部黒色にしたろ。

まるで昆虫のような眼やで。かつこえーこと間違い無しや。あー、でも複眼もえーかなー。

いや白目の部分含めて色々な色彩が常にぐるぐる回ってる虹色にしたろ。

「ええ。承りました。こちらの扉をくぐると転生となります」

「んじやな。死ね！」

うーお。最後に何か言いよった。捨て台詞か！？捨て台詞なんか！？ホンマ最後までござー！

ちよつとは神様敬えつっーの。

そうでなくても礼儀ぐらい、ちゃんとせえ。

礼儀正しいやつのはちゃんと要望聞いとるからな。こんなんせえへんで。

つーか、よー考えたら凄いやつになつたな。イケメンのデブ、肌黒、ちり毛、ゲジ眉でケツあご、あと目が虹色。

何人やねんって感じやな。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1236y/>

---

転生者予備軍の倉庫 後転生

2011年11月1日16時05分発行